

1.4.2 アンカー体グラウトの防食機能について

従来の「グラウンドアンカー設計・施工基準，同解説」では，アンカー体グラウト材を防食材料のひとつにカウントしていたが，近年これが削除（あるいは条件付）となっている。

これは写真に示すように，アンカー体に亀裂が入ることが認識されたことや，テンドンの被り厚の確実な確保や自由長部グラウト材の逸出などが考慮された結果と思われる。

また，アンカー体グラウトをパッカー等で確実に加圧注入すれば，図 4.2.1 のように周辺部の地下水脈等を閉塞し，テンドン等の防食機能増強効果が期待される。



写真 4.2.1 摩擦（引張）型アンカー体クラック
（荷重 1000kN，アンカー体長 1.5m，クラック間隔平均 6.5cm）
（圧縮型でも同様にクラックが入ることが確認されている）

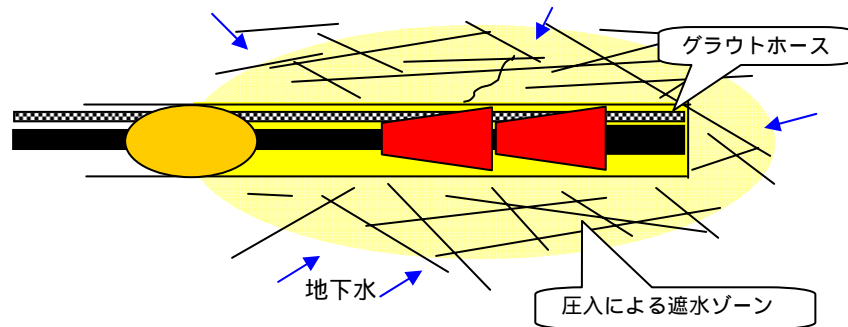


図 4.2.1 アンカー体グラウトの加圧効果

なお，テンドンの防食性を高めるには，施工中の損傷も考慮し，二重防性とすることが望ましく，そのためには，全区間アンボンドシースとするか，カプセル型のアンカー体とするなどの対応が必要である。

テンドンを樹脂加工のみとする場合は，テンドン挿入時にケーシング等で損傷を与えないようにしなければならない（図 4.2.2）。

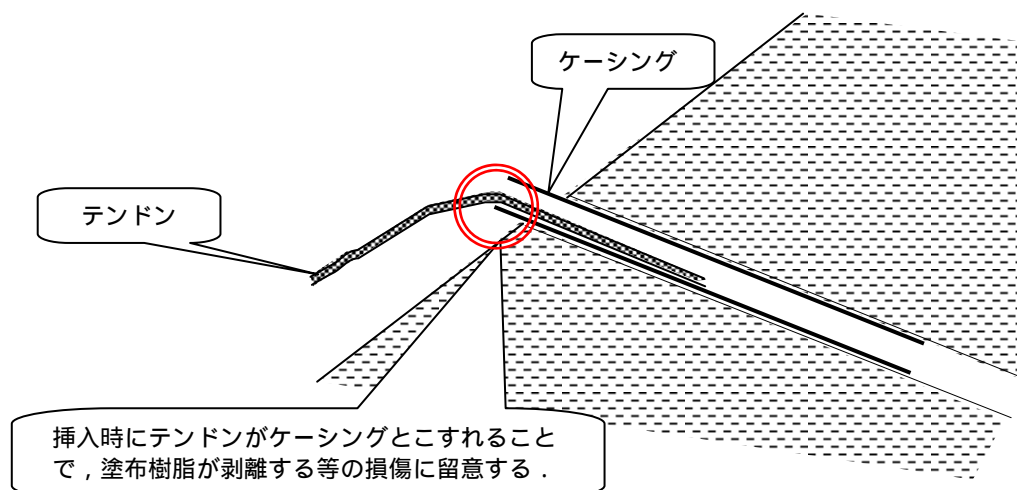


図 4.2.2 テンドンを損傷するケース